

平成 28 年熊本地震災害のひょうごボランティアプラザ先遣隊の結果と 災害ボランティアバスの実施について

1 ひょうごボランティアプラザ先遣隊の結果

先遣隊は、15 日の夕刻、フェリーで神戸港を出発し、16 日朝、大分に上陸しました。陸路で熊本県に向かう予定でしたが、16 日未明の本震やその後の余震の影響により、現地は救命救急の段階であることや、道路が寸断されている状況から熊本県入りを断念し、下記のとおり、大分県社会福祉協議会等で調査・協議を行い、災害ボランティアの状況を判断しました。

- (1) 余震等による被害の拡大が予想され、安全面の確保が困難な状況から、現時点では被災地でのボランティアセンターの設置、災害ボランティアの受入れは困難な状況である。

熊本市社会福祉協議会は、災害ボランティアセンターの開設予定(16 日)を延期したほか、他の市町社協においても開設を見合わせている。

- (2) 今後、余震が落ち着くと災害ボランティアニーズは多数見込まれ、本県など遠方からのボランティア支援も必要である。
- (3) 今回の地震では九州全域の交通網に被害が出ており、関西からのボランティアは、一度に多数が乗船でき、比較的安価なフェリーの利用も有効である。このため、フェリー会社にボランティア割引を提案し、あわせて地元の大分県社協と協議しフェリー会社への協力を要請した。

2 災害ボランティアバスの実施

ひょうごボランティアプラザによる災害ボランティアバスについては、現地の受入体制が整い次第、実施する予定です。